

1. ルネサンス

1.1 ルネサンスとは

新しい人間性を表現しようとする動きであり、古代ギリシャ・古代ローマの文化・芸術を復興させようとする運動である。

◇ルネサンスの起源

14 世紀に、商業活動のさかんなイタリア(フィレンツェ、ジェノヴァ)で始まった。とくにフィレンツェが中心で 15 世紀にはフィレンツェのルネサンスが最盛期だった。



1.2 メディチ家

フィレンツェの大金融業者であり、ダヴィンチ、ミケランジェロ、ボッティチェリら芸術家らのパトロン(保護者、後援者)となる。

◇コジモ・デ・メディチ

コジモ・デ・メディチはプラトン学院(アカデミー)を創設し、古代ギリシャの学問研究を盛んにした。

◇ロレンツォ

コジモ・デ・メディチの孫であるロレンツォはフィレンツェ共和国の専制君主として振る舞った。

◇ローマ教皇レオ 10 世

ロレンツォの次男が後のローマ教皇 10 世であり、政治的にというよりもルネサンスへの関心が高く、積極的に芸術家を保護した。

1.3 三大発明

ルネサンスは技術の大改革から三大発明を生む。それが「火薬」、「羅針盤」、「活版印刷※1」であり、これらの起源は全て中国である。

1.4 ルネサンス文芸・芸術の作品

◇文学

個性主義・人間主義・国民文学としての性格を生み、14 世紀には 3 大詩人があらわれる(ダンテ、ボッカチオ、ペトラルカ)※2

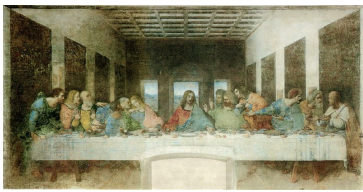
作者	著書名	内容など
トマス・モア※3	ユートピア	ユートピアとはどこにもない理想の社会であり、現実の社会の矛盾を批判するためのユーモア感覚に溢れた作品である。
ダンテ	神曲※4	地獄篇・煉獄篇・天国篇の 3 篇からなり、生身の人間であるダンテがこの 3 つの世界を旅するという作品である。
ボッカチオ	デカメロン	10 人の男女(男 7・女 3)が 1 日に 1 人 1 話ずつ、10 日間で 100 の小話を語る。近代小説の先駆と評される。
ペトラルカ	抒情詩集	自然な感情の動きを詩に表現した。

◇科学

科学者	内容
コペルニクス※5	地動説を唱えた

◇芸術

芸術では現実をありのままに表現する**写実主義**が広まった。ルネサンスの三大芸術家としてレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロが活躍した。

芸術家	代表作品
ボッティチェリ	  「ヴィーナスの誕生」 「春(プリマヴェーラ)」
レオナルド・ダ・ヴィンチ	  「モナ・リザ」 「最後の晩餐」
ミケランジェロ	  「ダヴィデ像」 「最後の審判」
ラファエロ	 「大公の聖母」

※1 ゲーテンベルグにより 15 世紀中期に発明されたが、中国は 11 世紀半ばには発明されていた。

※2 ちなみに世界三大文豪はシェイクスピア、ダンテ、ゲーテである。

※3 詳しくは政治学第 6 回 p.3 にある。

※4 神曲は彼の出身地フィレンツェのトスカナ語で書かれた。

※5 コペルニクスの天動説に賛同していたガリレオ・ガリレイ(1564～1642)は自ら望遠鏡を製作し地動説に有利な証拠を次々発見した。

2. 大航海時代(地理上の発見)

2.1 時代背景

15世紀末から16世紀にかけて、ヨーロッパ諸国がアジアの特産物を獲得するために海外進出を行った。

◇各地域の特産物

アジア・・・主に香料(こしょうなど)

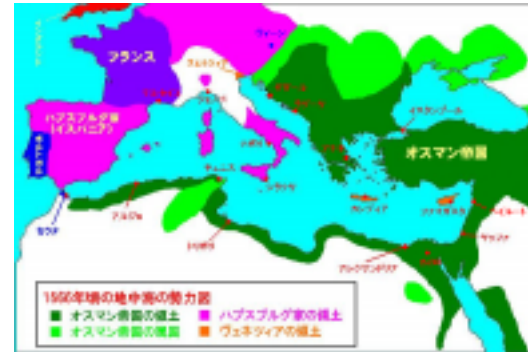
南アフリカ・・・銀と金

北アメリカ・・・国内産業の原料(綿花など)の産地と市場

◇当時のヨーロッパ諸国の貿易

当時ヨーロッパ諸国が行っていた東方貿易にオスマン帝国

※1 が介入し、貿易が困難となっていた。



2.2 各国の海外進出※2

◇ポルトガル

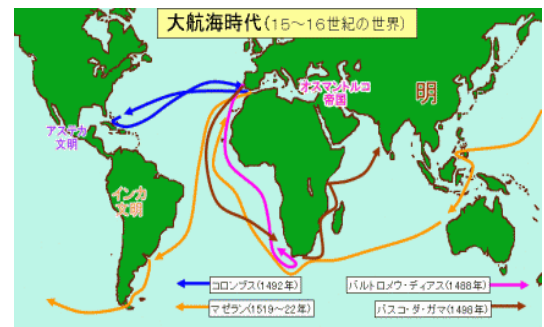
エンリケ航海王子の後援によって、1488年にバルトロメウ・ディアスは喜望峰に到達しアフリカの南端を確認した。また、1498年にヴァスコ・ダ・ガマは喜望峰をまわり、インド南西岸のカリカットに到達した。その後、1510年、ゴアにインド総督府を設置した。



◇スペイン※3

コロンブス※4はスペイン王女イサベルの援助を受け、1492年、西回りでアメリカ大陸(新大陸)を発見した(バハマ諸島に到着)。

また、スペイン王の援助を受け1519年に出港したポルトガル人マゼランの船隊はアメリカ大陸南端の海峡(マゼラン海峡)を発見した。さらに太平洋を横断して、21年にフィリピンに到達した。マゼランはこの地で死亡したが、部下達はインド航路を経て、スペインに帰着した。(世界一周の実現)



2.3 スペインとポルトガルの植民地分割

◇植民地分界線(教皇子午線)

1493年にヴェルデ岬西方560kmの子午線の西側で発見される土地はすべてスペイン領とした。(しかしポルトガルが抗議。)

◇トリデシリャス条約

1494年教皇子午線をさらに西へ移動し、その東側の発見地をポルトガル領とする。※5



← スペイン → ポルトガル

2.4 スペインの征服活動

時代	人物	征服場所
1524 年	コルテス	アステカ帝国(メキシコ)
1533 年	ピサロ	インカ帝国(ペルー)



◇価格革命

メキシコやペルー・ボリビアなどで銀鉱を発見され、南米からの銀・金の流入で、ヨーロッパにインフレ(物価急上昇)が発生した。これを**価格革命**という。

※1 1299 年に建国され徐々に勢力を拡大していった。1453 年にコンスタンティノープルを占領し、その後バルカン半島を中心として栄えたイスラム国家。

※2 ヴァスコ・ダ・ガマの東インド航路の発見やコロンブスによる新大陸をはじめとする地理上の発見は世界貿易の構造が一変し、従来のヨーロッパ規模の貿易からアジア・新大陸を含む規模にまで貿易が拡大した。このことを**商業革命**という。

※3 スペイン王国の誕生は近代の絶対王政期 p.1 参照

※4 出身はジェノヴァであり、天文学者**トスカネリ**らの地球球体説をよりどころにしていた。

※5 これ以後、スペインは中南米進出、ポルトガルはアジアへ進出していった。ただし、ブラジルはトリデシリャス条約により東側に入ったので、ポルトガルが領有する。

3. 宗教改革※1

3.1 背景

◇当時の教会

教皇レオ 10 世がサンピエトロ大聖堂の建築資金を調達するために贖宥状(免罪符)を販売し、これを購入すると罪を免除(魂が免除)されると信じられていた。当時、国家統一の進んでいなかったドイツが最大の市場となっていた。

◇ルターによる贖宥状販売の批判

1517 年、ドイツではルターが「95 カ条の論題」の発表により贖宥状販売を批判した。

また彼はその著「キリスト者の自由」にて以下のように説いている。

- ・ 信仰義認説…信仰によってのみ魂が救済される。⇔贖宥状は必要ない
- ・ 聖書中心主義…福音(聖書)への信仰のみ⇔聖職者は必要ない

この結果、ルターの主張はローマ教会の横暴で苦しんでいた農民などに急速に広まった。

3.2 ドイツ農民戦争(1524 年)

◇ルターと教会の対立の表面化

教皇の権威を否定するルターを教皇レオ 10 世は破門した。一方、神聖ローマ皇帝カール(チャールズ)5 世は、ヴォルムスの帝国議会にルターを召喚して、説の取り消しを求めたが、ルターはその要求を拒否した。反皇帝派の諸侯らがルターを保護し、教皇・皇帝・諸侯の対立という政治的分裂状態が、宗教上の紛争という形をとったのである。

◇ドイツ農民戦争への突入

宗教改革が拡大するにつれて、カトリック派とプロテスタント派(ルター派)との間の対立は激化し、1522 年には騎士戦争、更に 1524 年、ドイツの中・南部の農民がルターの主張に刺激され、封建的負担の廃止などを求めて大反乱を起こした。(ドイツ農民戦争)ルターは当初農民側に同情的だったが、運動が過激化すると諸侯に鎮圧を呼びかけた。

◇アウグスブルグの宗教和議(1555 年)

1555 年のアウグスブルグの宗教和議で両者の対立は一応決着し、神聖ローマ帝国では諸侯や自由都市はカトリックとルター派のいずれかを選択し、信奉することが認められた。※2

3.3 各国の宗教改革の展開

◇各宗教とその主な信仰国

	カトリック(旧教)	ルター派(新教)	カルヴァン派	イギリス国教会
教義	教会を介して神と向き合う	・ 信仰義認主義 ・ 聖書中心主義	・ 予定説※3 ・ 聖書中心主義	カトリックとプロテスタントの折衷
信仰国	イエズス会の活動により世界的	ドイツおよび北欧	スイス・オランダ・イングランド・フランス	イングランド

◇カルヴァン派について※4

フランス人のカルヴァンがスイスのジュネーブで宗教改革を行った。彼は信仰と勤労を結びつけて、勤労努力の結果としての蓄財はゆるめられたとした。カルヴァン派はイングリ

ドでは**ピューリタン(清教徒)**、フランスでは**ユグノー**、オランダでは**ゴイセン**とよばれた。

◇イギリス国教会について

イギリスの宗教改革は**ヘンリー8世**と王妃**カサリン**との離婚問題という世俗的な動機から発生した。国王は離婚問題で教皇と対立し破門されると、**1534年**、**首長令※5**を發布し、自らを唯一最高の首長として**イギリス国教会**を創設し、教皇と絶縁した。その後**エリザベス1世**が**統一令**を出してイギリス国教会が確立した。これにより、イギリスは政治的にも宗教的にも完全に教皇から独立することになった。

◇カトリックの反宗教改革(対抗宗教改革)

宗教改革に対抗するために**1534年**に**イグナティウス・ロヨラ**らが創設した**イエズス会(ジェズイット教団)**によって、ヨーロッパでの勢力回復とアジアや新大陸への布教を活発に行った。また**1545年**から**トリエントの宗教会議**を開き、スペイン・フランス・イタリアではプロテスタントの普及は阻止された。

※1 ローマ教会(カトリック)に反発して新しいキリスト教の宗派を生み出した運動

※2 個々人ごとに自由に信仰を決められるということではない。

※3 神によりあらかじめ魂が救われるか否かは定められており、教会や自分自身もそれには関わることができないという考え。

※4 社会学第2回レジュメ p.6にも記載されている。

※5 イングランド国王を「イングランド国教会の地上における唯一最高の首長」と宣言した。